平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立稲原中学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成28年4月19日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 中学校第3学年 12名

教科に関する調査 国語、数学

- 主として知識に関する問題(A)
- 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 生徒質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等
- 学校質問紙調査 ----- 学校の教育活動全般についての取組や学校の
人的・物的整備の状況

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

- 基礎的な内容に関しては概ね良好であるが、発展的な内容になると課題が多くある。
- 記述式の問題において課題が見られるが、選択・短答式では正答率の高いものもある。

(1) 国語A (知識)

- ◇文章の一部を別の項目に移す理由として適切なものを選択することは、全員ができている。[A²ニ 100%]
- ◇質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書くことは、全員ができている。[A⁴ニ 100%]
- ◇漢字を読む（長年の努力が報われた）ことは、全員ができている[A⁹ニ 2 100%]
- ◆題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択することには、課題がある。[A⁹六]

(2) 国語B (活用)

- ◇ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択することは、ほぼ全員ができています。[B¹一 83.3%]
- ◇情報カードにまとめる内容として適切なものを選択することは、ほぼ全員ができています。[B²ニ 75.0%]
- ◆ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書くことには、課題がある。[B¹三 41.7%]
- ◆宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書くことには、課題がある。[B²三 8.3%]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	国語 (A)	国語 (B)
話すこと・聞くこと	79.2	—
書くこと	81.3	36.1
読むこと	79.2	57.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.5	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る（青字）・下回る（赤字）

数 学

- 数学 A, 数学 B とも, 学習指導要領領域ごとの平均正答率は全国を上回っているが, 「関数」領域にやや課題がある。
- 記述式の設定において, 無答率が高くなっている。

(1) 数学A (知識)

- ◇ $(-3) + (-7)$ の計算は, すべての生徒ができている。[A 1](3) 100 %]
- ◇命題の逆をすべての生徒が理解している。[A 7](3) 100 %]
- ◇比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え, x の値に対応する y の値を, すべての生徒が求めることができる。[A 9](1) 100 %]
- ◆比例の式について, x の増加量に伴う y の増加量を求めることに課題がある。
[A 9](2) 33.3 %]
- ◆反比例のグラフ上の点の座標から, x と y の関係を式で表すことに課題がある。
[A 9](4) 33.3 %]

(2) 数学B (活用)

- ◇与えられた情報から必要な情報を適切に選択し, 処理することができている。
[B 1](1) 83.3 %]
- ◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 [B 6](1) 75.0 %]
- ◆加えるべき条件を判断し, それが適している理由を説明することに課題がある。
[B 2](2) 16.7 %]
- ◆与えられた式を用いて, 問題を解決する方法を数学的に説明することに課題がある。
[B 6](2) 16.7 %]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	数学 (A)	数学 (B)
数と式	75.0	55.6
図形	79.9	45.8
関数	66.7	45.0
資料の活用	70.8	58.3

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う生徒の割合は、国語・数学ともに全国よりも低い。

	国語	数学
学校	16.6	41.7
県	52.3	53.9
全国	59.8	56.0

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う生徒の割合は、国語・数学ともに全国や県を上回る。

	国語	数学
学校	75.0	91.7
県	72.7	69.8
全国	74.1	69.4

(3) 平日及び休日に授業時間以外に全く勉強しない生徒はいない。また、1時間以上勉強をしている割合は、平日で、本校 75.0、県 66.3、国 67.9 であり、休日では本校 100.0、県 56.0、国 67.9 と平日・休日ともに何らかの家庭学習をしている。

	平日	休日
学校	0.0	0.0
県	6.7	18.1
全国	5.5	11.0

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」生徒の割合は、全国・県より高い。

学校	58.3
県	47.4
全国	56.7

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した生徒の割合は全国・県を下回っている。

学校	25.0
県	43.3
全国	44.2

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた生徒の割合は、全国や県を上回る。

学校	91.7
県	39.3
全国	45.2

(7) 2年生の時に受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますかの質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を下回っている。

学校	50.0
県	77.3
全国	77.8

(8) 1、2年のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますかの質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を上回っている。

学校	75.0
県	59.1
全国	63.1

(9) 総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますかの質問に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を上回っている。

学校	83.3
県	72.5
全国	72.8

(10) 自分の将来の夢や目標を持っていますかの質問に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を下回っている。

学校	50.0
県	68.9
全国	71.1

4 調査結果を踏まえた改善方策

(国語)

全体的な結果を見てみると、平均正答率において国語 A では、県・全国を上回っており、設問別に見ても県・全国平均を下回っているものはない。しかし、国語 B では、平均正答率が県・全国を大きく下回る結果となっている。特に、「書くこと」の領域において差が大きく出ている。この結果から、一つ目の課題として、問題文で問われている事を的確に理解する必要がある。設問 2 三では、正答率が 8.3% しかなく、この主な原因は問題文を理解できていないことにあると思われる。さらに、二つ目の課題として、文章を書くことに慣れていないことが挙げられる。設問 1 三では、正答率が低だけでなく、無解答率が 8.3% と県・全国平均を上回っている。このことは、「どう書いて良いか分からない」といった事も考えられる。以上の二点から、まずは長文やそれに関する問題文に触れる機会を増やしていき、文章を丁寧に読む指導を行う。加えて、必要に応じて読み返したり、推敲する習慣を身につけさせていきたい。また、短めの文章から書き慣れさせていき、徐々に書く量を増やしながら適切な表現ができるよう指導していきたい。

(数学)

全体的な結果を見てみると、正答率はそれぞれ数学 A・数学 B とも県や全国を上回る結果であった。しかし、学習指導要領の領域ごとに考察すると、関数分野に課題が見られた。数学 B における関数分野における正答率がやや低く、加えるべき条件を判断したり、与えられた情報からの解釈について、課題が顕著であった。そこで、今後の取り組みとして「問題の内容把握」に時間をかけ、情報の取捨選択ができるように指導していく。また「書く」ということが苦手な生徒に対して、まずは個々の考えを口頭で引き出していきたい。そして、根拠や理由を明確にした上で、解答へとつなげていきたいと考えている。

生徒質問紙で、全生徒が「数学ができるようになりたい」と答えている。身近な事柄と関連づけながら、興味関心を持たせ、「分かった」「できた」という実感を得られるような指導や声掛けをしていきたい。